第２章　北上市の多文化共生に係るこれまでの取組の現状と課題

当市では、これまで姉妹都市・友好都市交流、また、国際交流、外国人支援等を目的として平成８年に国際交流ルームを設置し、語学講座や困りごと相談等を実施しながら外国人住民が快適に生活することができるよう支援を続けており、また、日本人住民に対しても外国語講座や外国人を地域で受け入れるためにどうしたらよいかを学ぶための講座を開催するなど多文化共生意識の醸成を行ってきました。また、平成26年に開催されたアジアマスターズ陸上競技選手権大会をきっかけに、公共施設の多言語表記を進めるとともに、民間事業所に対する北上市おでんせ多言語表記促進事業補助金の交付等、サービスの多言語化を進めてきました。

これまでの取組に係る成果と課題について次のとおり考えました。

１　日本人のための取組

(1)　現状

外国語講座（英・独・西・中・韓・仏・伊)、外国人住民から学ぶ文化、料理、ダンス、スポーツ講座の開催(どんな国シリーズ等)、音楽が奏でる国際交流事業、ハロウィーンパーティー、姉妹都市・友好都市交流（ホームステイの受け入れ、訪問、交流事業の企画等)、インターナショナルスクール事業、遊・YOU学園祭、ワン・ワールド・フェスタなどを開催し、異文化理解を深めてきました。

出前講座で「外国人市民講座」のメニューを設定し、自治会等に出向いて説明し、外国人に対する理解を進めてきました。

(2)　課題

国際交流への認識は高まったものの、多文化共生、異文化理解について市民の意識が十分に高まっているとはいえない状況です。

(具体的には)

・言葉の壁がある。

・外国文化を理解する風土が十分に根付いていない。

・外国人に対する偏見が一部にある。

・何かしてあげたいが、どのように声をかけたらよいかわからない。

(市国際交流ルーム調べ)

２　外国人のための取組

(1)　現状

外国人相談、日本語指導、日本文化紹介・体験講座（フィールド・トリップ等）開催、日本語テキスト『いわての「生活」日本語』(平成23年)の発行、北上市ガイ

ドマップ（英・中・韓）作成、学校教育課が実施している学校生活における通訳支援等外国人が快適に生活できるよう支援をしてきました。また、「外国人にやさしいまちづくり事業ver．Ⅰ」やアジアマスターズ陸上競技選手権大会をきっかけに公共施設等の多言語表記を進めるとともに、民間事業所にも補助金を交付して、看板やパンフレットの多言語化を進めてきました。

(2)　課題

多言語化が十分に行き渡っているとはいえず、一部外国人住民は不便を感じています。また、日本語になじんでもらうためにふりがなをふるなどの配慮も不足しています。

（具体的には）

・買い物をする際、売場、品物が探せない。
・飲食店のメニューがすべて日本語で何を頼めばいいのかわからない。
・公共交通の利用の仕方がわからず困る。
・医療機関を受診した際、医師とコミュニケーションが取れずに困る。
・人と満足にコミュニケーションが取れずに孤独を感じる。
・公衆無線ＬＡＮの環境が整っていない場所が多い。

（市国際交流ルーム調べ）

（参考）

市施設の多言語表記率及び市内の公衆無線ＬＡＮ環境整備状況（平成27年12月末現在）

内容	状況	備考
市施設の多言語表記率	3.2%	156施設中５施設
市内の公衆無線ＬＡＮ環境整備状況		
市内宿泊施設	21施設	全35施設
市施設	１施設	生涯学習センターのみ

（市生涯学習文化課調べ）